



第98回 澁川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和8年2月3日（火）午後7時00分～
会場：澁川ほっとプラザ 4階大会議室

講演1 「とんでん嚥下調整食 試食報告」

講師：澁川地区在宅医療介護連携支援センター
センター長 川島 理 氏

『和食処とんでん』で食べることのできる嚥下調整食『やわらかさざんか』を、澁川摂食嚥下研究会世話人会にて試食し、味はどうか？咀嚼や嚥下の安全性はどうか？などなど…様々な視点でまとめ、報告していただきました。残念ながらレポートでは公表できないので、気になる方はぜひ食べてみてくださいね。嚥下調整食学会分類 2021 コード4相当だそうです。（要予約です）



講演2 「口腔ケアで多職種連携

～口腔がんから口腔カンジダ症まで～

講師：榛名荘病院 歯科衛生士 原田 規子 氏



榛名荘病院での口腔ケアの取り組みについてお話していただきました。高齢者は特に、入院により体力・免疫力が低下しやすく、口腔カンジダ症を発症し、肺に至ったカンジダ菌により肺炎となる例もあるそうです。榛名荘病院では、看護師や介護士・ST だけではなく、PT や OT にも口腔ケアを指導し、多職種で日々の口腔ケアに関わっているとのこと。今回、口腔カンジダ症の写真も見せてくださったため、日々の関わりのなかで口腔カンジダ症の可能性に気付いたら、早期発見の一助となるかもしれませんね。

また、口腔がん術後の症例も紹介していただきました。口腔がんでは歯や骨を切除した場合、顎義歯（切除した骨の代わりになるもの）を作成するそうです。それでも摂食嚥下障害や構音障害が残存することもあり、適切な口腔ケアや顎義歯の管理、口腔機能のリハビリが必要となってくるそうです。（胃ろうから、生卵を飲めるようになった症例には、とても驚きました！）先生は、澁川地区も顎義歯を作成する病院が増えてくれることを望みます、とおっしゃっていました。

口腔がんの手術は、県内は群馬大学医学部附属病院でしか行っていないため、手術を待っている方はとても多いそうです。喫煙は口腔がんの発症因子となるため、禁煙での口腔がんリスク軽減をおすすめしてくれました。

口腔がんにより顎義歯を使用している方に対応する機会は少ないかもしれませんが、研修で様々な症例を知り、いざという時に引き出せる知識として、積み重ねていきたいと思いました。



【講演資料より抜粋】

参加者内訳

職種	計
医師	4
歯科医師	5
薬剤師	1
保健師・看護師	7
歯科衛生士	8
ST・OT・PT	6
管理栄養士・栄養士	4
ケアマネ	5
介護職員	1
その他	2
合計人数	43

【次回 第99回 澁川摂食嚥下研究会の予定】

開催について：4月7日（火）午後7時～／澁川ほっとプラザ 4階大会議室

演題：「食べやすい自助具」（仮）

講師：澁川中央病院 作業療法士 小久保 将之 氏